

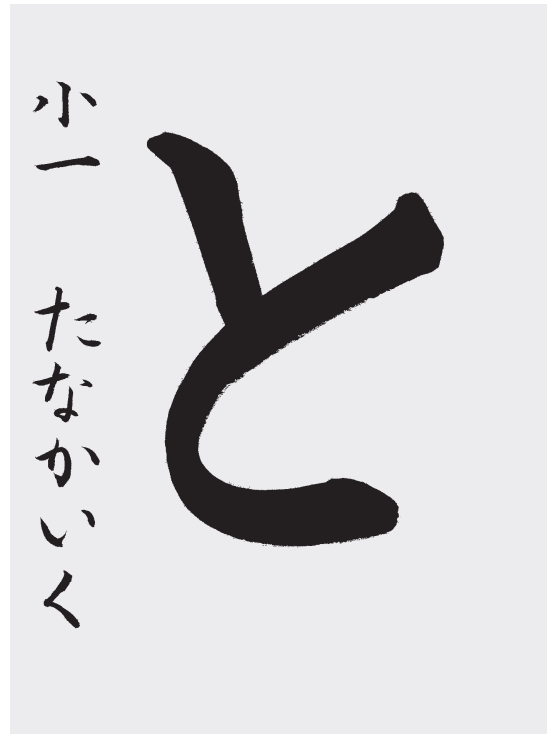
〔6月9日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。
(幼・小1の方は、学年を書かなくてもよい。)

小学2年参考手本

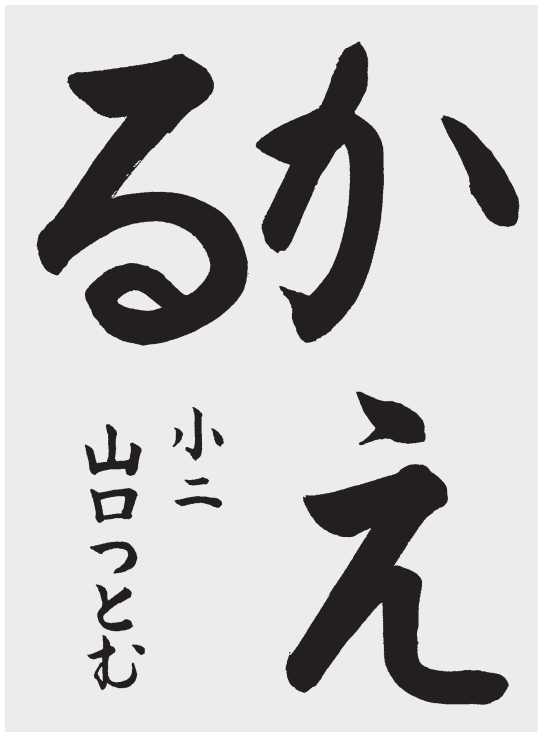


千葉蒼玄先生

幼・小学1年参考手本



東福青篁先生



佐藤菜扇先生



前田龍雲先生

〔6月9日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学4年参考手本

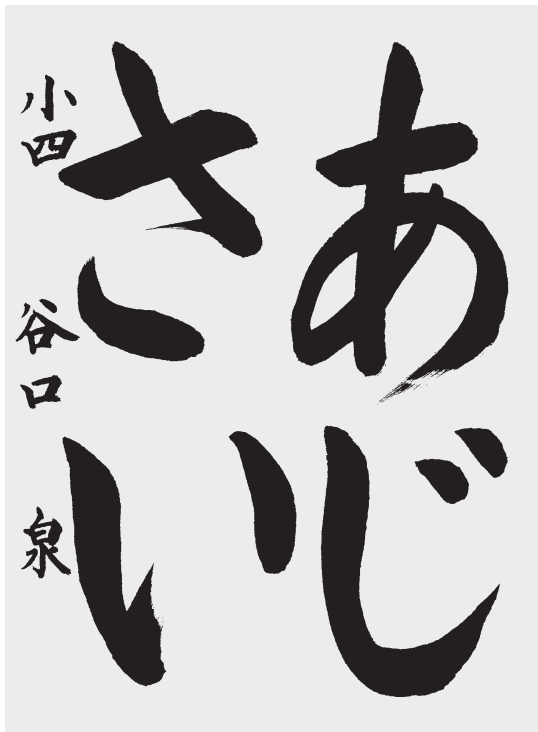


田中扇溪先生

小学3年参考手本



北村白琉先生



一谷春窓先生



広瀬舟雲先生

〔6月9日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学6年参考手本



種谷萬城先生

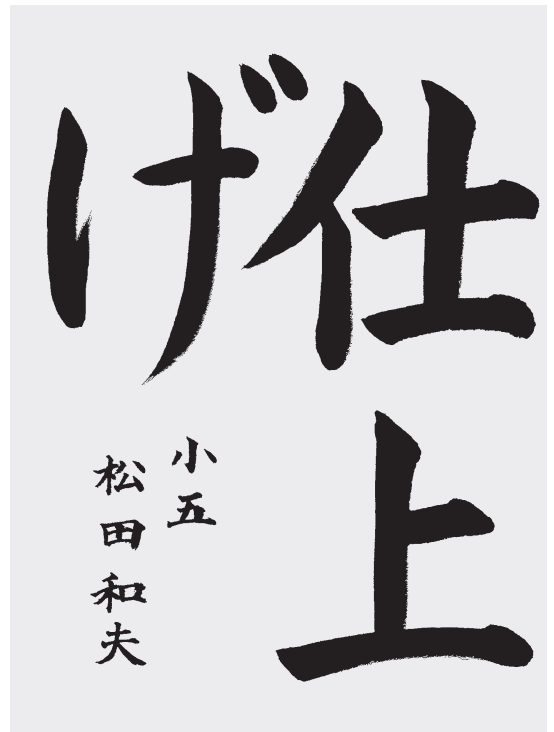
小学5年参考手本



川村美泉先生



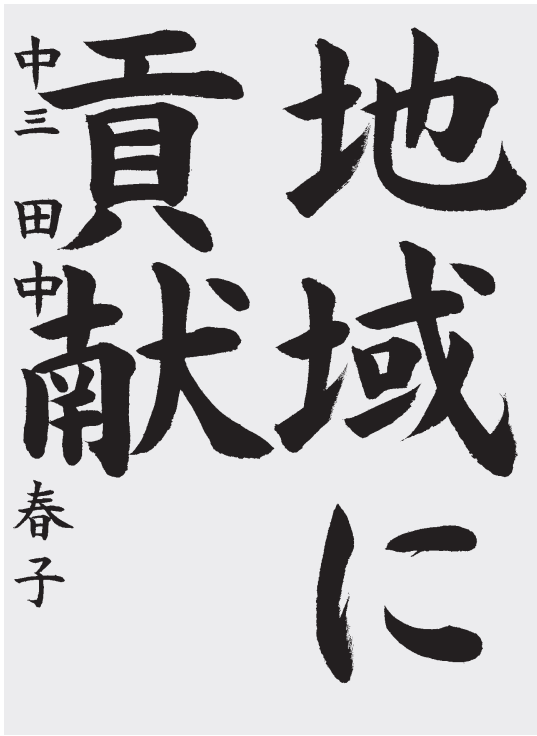
半田藤扇先生



小林琴水先生

〔6月9日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

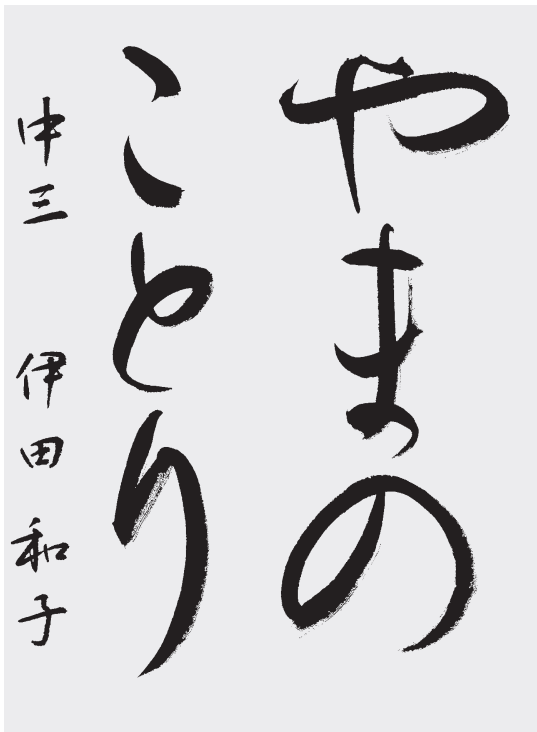
中学全学年参考手本（中学生は、どの課題を書いてもかまいません。）



大平 邑峰 先生



名越 蒼竹 先生



下谷 洋子 先生

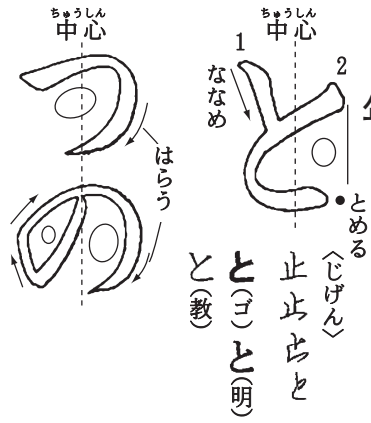


小竹 石雲 先生

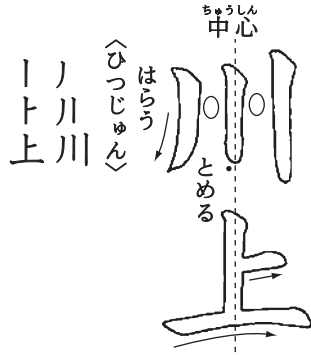
毛筆参考手本解説(1)

活字と手書き文字の違いに気をつけて書きましよう。
ゴシック体(ゴ)・明朝体(明)・教科書体(教)・HGP行書体(H)

1年



3年



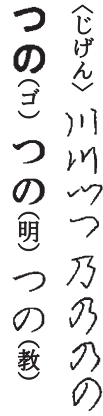
4年



5年



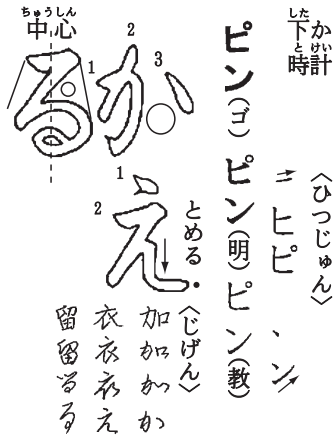
2年



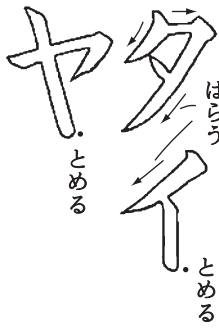
川上(ゴ)川上明(教)川上(教)

雨(ゴ)雨水明(教)雨水(教)

初夏(ゴ)初夏(明)初夏(教)



かえる(ゴ)かえる(明)かえる(教)



タイヤ(ゴ)タイヤ(明)タイヤ(教)



あ(ゴ)あ(明)あ(教)



仕上げ(ゴ)仕上げ(明)仕上げ(教)

毛筆参考手本解説(2)

6年

中心
天気
 出る
 反らす
 「メ」は中心より左側に

《筆順》
 まっすぐ
 長短
 天

一二三 天気
 ノー々 気 気 気
 □□□ 天 気 明
 天気 天(教)
 天気 天(明)

中心
節電
 とめる

《筆順》
 々々々 節 節 節
 千 千 千 電 電
 節電(三) 節電(明) 節電(教)

中学

中心
地域に貢献
 あげる
 そりは長く
 犬 止め

《筆順》
 長く

一十十 地 地 地
 十 十 十 域 域 域
 一 二 千 千 貢 貢
 + 十 南 南 献 献
 地域に貢献(三)
 地域に貢献(明)
 地域に貢献(教)

研究発表

研究発表(H)
 終筆の変化

次へつながる
 気持ちで

やさしい行書

終筆の変化
花束
 次へつながる
 気持ちで

花束(H)

**やまの
 こもり**

点画と点画が筆の動きとして
 つながっていることを「筆脈」
 という

や
 つき返して リズミカルに
 入る

やまのこもり(H)
 つき返すところ

ひらがなの字源 (391)

り	と	こ	の	ま	や	源字	字形
利	止	己	乃	末	也		
あり	と	ら	乃	ま	や		
り	と	こ	の	ま	や		

※字源については、異字体から変遷したものに*印を付して()にその字体を記した。
 ※字形は古筆から抽出した。上段には字源に近い草仮名を配し、中・下段にはその変遷過程等を配した。

「国語科書写の理論と実践」
 全国大学書写書道教育学会編より転載

〔6月9日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学4年

小学3年

支 部 名			
段・級			
学 年	と	ず	庭
名 前	も	な	の
	重	り	の
	そ	に	ウ
	う	実	メ
	で	を	の
	す。	つ	木
		け	が
		て	、
		、	す

支 部 名			
段・級			
学 年	し	口	
名 前	い	の	
	は	形	
	つ	を	
	音	ま	
	を	ね	
	し	て	
	よう。	正	

分間を整えて、つりあいよく書きましょう。

中心

庭

出る

重

等間かく

長く

三本目の横画と交わるまで垂直に

《筆順》

庭

一 戸 宀 宀 庭

二 庭 明 庭 教

重

《筆順》

重

一 一 言 重 重 重

二 重 明 重 教

漢字の字形を正しく書きましょう。

「三」は徐々に長く立てながら払う。

筆順に注意しましょう。

形

正

音

長く

たて画が出る

《筆順》

形

一 一 开 形 形

二 形 明 形 教

正

《筆順》

正

一 一 下 正 正

二 正 明 正 教

音

《筆順》

音

一 一 立 音 音

二 音 明 音 教

〔6月9日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

中学生（行書）

中学生（楷書）

支部名	群馬県の富岡製糸場は、 平成二十六年に世界文化遺産 に登録されました。
段・級	
学年	
名 前	
青 山 倫 太 朗	

支部名	群馬県の富岡製糸場は、 平成二十六年に世界文化遺産 に登録されました。
段・級	
学年	
名 前	
青 山 倫 太 朗	

馬 群
 弓 羊
 川 ↓ 心

次の線につながる
 気持ちで連続する

〈簡単な行書〉

中心
 登録されました

漢字はかなよりも少し大きく書きましよう。

中心
 登
 字形
 ノ マ ア 八 入 登
 登 登 登 登
 登 登 登 登

中心
 遺
 筆順
 貴 貴 遺
 遺 遺 遺 遺
 遺 遺 遺 遺
 あく
 しんによう

中心
 馬
 等間隔
 筆順
 一 一 一 一 一 一 一 一
 あける 馬 馬 馬 馬 馬 馬 馬

これからの作品締切日と課題

令和6年7月号～12月号までの作品締切日と毛筆課題

中学生 (全学年共通)		小6	小5	小4	小3	小2	幼・小1	締切日	
季節	太陽の 知恵	夏至	開会	雲	たなばた	ほたる	す	7月7日	7月
手にぞうり	夏河をこす うれしさよ	ソーダ水	自由形	天の川	手あらい	うきわ	あさ		
希望	生きる 神秘	ガラス玉	登場	月夜	工作	ゆかた	め	8月4日	8月
もが夢の跡	天体観測	達成	右はらい	花火	かき氷	さなぎ	せみ		
虫鳴く夜	交流	防災	満月	秋風	星	えいが	よ	9月8日	9月
えし	不言実行	敬老の日	ポスター	大海	王さま	みのり	うみ		
宇宙開発	天下(九成宮醴泉銘)	調査	主人公	区間	十月	川	か	10月6日	10月
の朝	秋晴れ	演奏会	金魚	研究	白玉	ぶどう	やぎ		
公平無私	清新(九成宮醴泉銘)	晩秋	大使館	成長	光	メロン	ゆ	11月5日	11月
月かげ	さゆる	貿易港	豊作	絵本	生きる	むすび	はれ		
理想実現	春林(集字聖教序)	常識	子守歌	注文	冬山	そば	も	12月3日	12月
の調和	自然と	武道館	師走	デザイン	花たば	テレビ	ゆき		

7月号の硬筆課題 ※硬筆課題は、翌月課題のみ掲載しております。

幼・小1

を	こ
やり	と
まし	り
した	に
。	え
	さ

小 2

あ	つ
ら	め
い	た
ま	い
し	水
た	で
。	手
	を

小 3

花	み
に	ち
も	ば
名	た
ま	の
え	黄
が	色
あ	の
る	

小 4

に	色	皮
あ	そ	ふ
た	は	の
る	、	中
と	強	の
ふ	い	メ
え	し	ラ
る	が	ニ
	い	ン
	線	

小 5

る	ね	ム
と	て	サ
活	い	サ
動	て	ビ
を	、	は
始	夕	昼
め	方	間
る	暗	は
	く	な
	な	

小 6

短	の	五
い	俳	七
詩	句	五
形	は	と
の	、	い
文	世	う
学	界	十
で	で	七
す	最	音
	も	

中学生

温故知新とは、古いことを研究することにより新しい知識や道理を発見することである。

書写を知り 学び楽しむ



広瀬舟雲先生

講師の広瀬舟雲先生は、武蔵野大学教育学部教育学科・教授、全国大学書写書道教育学会副理事長、(公財)書道芸術院評議員です。著書に「刻された書と石の記憶」、共著に「国語科書写の理論と実践」などがあります。

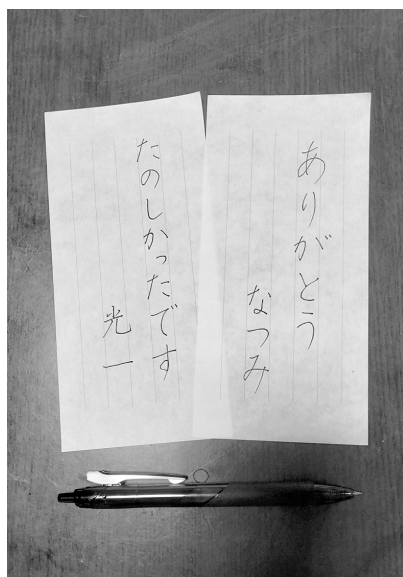
第87回 一筆箋

現在の若者は、スマホ必携の時代で、通信手段のほとんどがこれで済みます時代となった。ある若者が、「パソコンは無くてもかまわないが、スマホが無くては困る」と述べていたことを聞いたことがある。

ひと昔前は、中学生くらいになると「早書き」できる(行書が書ける)ことがひとつのステータスであったが、いまや「早打ち」に代わったようだ。若者のスマホに文字を入力する指の速さは、普通の高校生でもとても早く、名人級になると、話すスピードでも正確に記録することができるということである。手書きよりもスマホでの指のタッチ動作でのメモが増えつつあり、若い人の「手書き」がなくなったわけではないのだが、徐々に減りつつある現象は、進んでいるようでとても嘆かわしいと感じる今日である。大学生になっても、手紙やはがき、ましてや大きなA4判などの封筒に宛名を書いたことのない学生が存在する。コロナ禍で通学が禁止され、自宅学習をせざるをえなかった時、「書写」の授業受講生約100名全員に、作品の提出は大学研究室所在地を書いて私宛に封書で作品を郵送とした。その時、宛名の敬称に「先生」よりも「様」が多いことは予想していたが、なんとその中に私の氏名を書いたのち「御中」と記された封筒があったのは驚いた。敬称の用い方すら知らない若者がいるのかと思うととても憂慮すべき問題だと思った。とにかく伝達もスマホ頼りで、手紙を書いて郵送するという行為が激減しているからではないかと危惧する次第である。

手紙の正しい書き方を教えると、少数の者は実践してくれると思うが、今まで書いたことのない若者に実用として用いるにはハードルが高い。ハガキで郵送よりもスマホのアプリのラインの方がはるかに速い。このような中に生きる若者にとって、手書き文字の有用性を真正面から訴えてもなかなか進まないのが現状である。日常における手書き文字の普及という点を考えると、私はラインと同様に少ない言葉で相手に伝えることができる「一筆箋」を用いる方法を進め、普及させるのが効果的ではないかと考える。

「ありがとう なつみ」「たのしかったです 光一」などと言葉やつぶやきを記すだけでいいので、慣れればとても簡単である。この短い言葉や文を添えることによって、相手に対する自分の誠意や真心が、書かれた手書き文字から伝わってくるからである。まずは一筆箋の効用を試してみたいと考える。



今月のホープ



筆を立てた透明感のある美しさに魅了されます。気脈が自然につながり穏やかな表情は、日頃の学びの成果かと窺え見事です。



一面毎丁寧に書け、筆運びが自然で伸びやかです。明るく、清々しい印象を与え、名前も作品に調和し、立派です。

小五 長尾芽依 (福山塾)

支部名	千石	イ	赤	
段・級		ス	十	ア
学年	六	の	字	ン
氏名	瀬戸なつみ	実	社	リ
		業	を	・
		家	設	デ
		で	立	ユ
		あ	した	ナ
		る	た	ン
		。	ス	は

細部まで丁寧に書かれた筆線により、安定感のある落ち着いた作品となりました。強い筆圧が見事です。

小六 瀬戸なつみ (千石)

支部名	一心会	て	
段・級		み	い
学年	三	た	つ
名前	宇佐美奏音	い	か
		な	外
		。	国
			へ
			行
			っ

いってんいっかく 一点一画とてもリズム良く書かれ字
けい ととの うつく 形も整い美しいです。ゆったりと
なが しめん つか かた たいへんみ 流れるような紙面の使い方大変見
ごと 事です。

小三 宇佐美奏音 (一心会)

◎出品に際してのご注意◎

システムの都合上、ようちえん生全員が新1年生の
出品券になっていますので、「昇級試験受験一覧」
にて学年の訂正をお願いします。

6月号の清書のしめきりは、

6月9日(日) 必着

おくれのないようにお送りください。

尚、7月号の雑誌(6月9日締切バーコード出品券)
は、5月25日発送予定です。

公益財団法人 書道芸術院

【お願い】

今回、旧学年の課題を書いた作品が多くありましたが、特別に審査しました。
4月号から新学年に切り替わりますので、お気を付けください。

第77回書道芸術院展

書道芸術院春華賞



現代詩文書部
大平 邑峰



「旅空」

大平 邑峰

この度の書道芸術院展におきましては思いもかけない春華賞の受賞、師の小竹石雲先生を始め、院の先生方や書友の皆様方のご指導ご鞭撻の賜物と心から感謝いたしております。早いもので、初出品から50年の歳月が経ちました。この間、院の活動におきましては毎年の院展を始め、様々な場面で多くの経験をさせて頂きましたが、書作面での成長は牛歩の如くであり、申し訳なく思っております。

一昨年からは始めた役員の仕事、またた役員の仕事、評会、作品作りに対する意識を新たにすることをいたしました。機になりました。新鮮な感情がわき起こった瞬間を大事にして、これから前向きに努力して参りたいと思っております。

書道芸術院大賞



現代詩文書部
佐藤 祥扇



「長崎県のわらべうた」

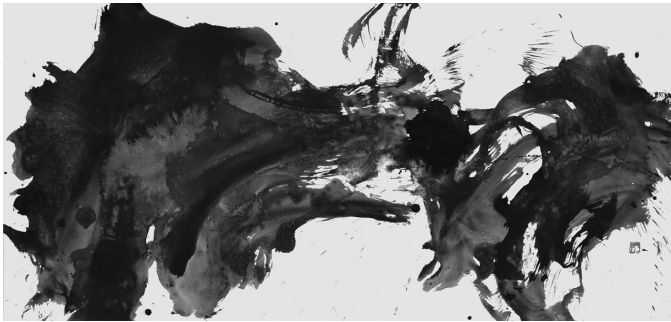
佐藤 祥扇

この度、歴史ある第77回書道芸術院展におきまして栄誉ある「大賞」をいただき、今も信じられない思いです。書道芸術院、宮城野書人会、魯江書院書研、風信会の諸先生、書友の

皆様のお蔭と深く感謝しております。振り返ってみますと、娘達と一緒に山田魯江先生の教室に通い始め、山田梓江先生とお二人に手ほどきを受け、三十数年「継続は力なり」の言葉に励まされ、今日まで書き続けることができました。受賞作品「長崎県のわらべうた」はかなのみの作品で、しかも同じ文字が何度も出てくるため変化をつけるのに苦労し、言葉遊びの面白さを表現することに心掛けました。その点を評価されたことは私にとってこの上ない喜びです。受賞を新たな出発とし、今後も自己表現できるよう精進して参ります。

△編集部より▽
二月に全国学生書道展と一緒に行われた大人の展覧会上位作品です。

書道芸術院準大賞



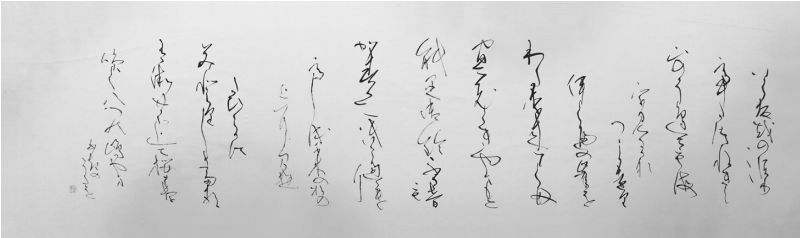
「心月」

石黒 和喜



「白い鳩」

大友 汐苑



「いく坂を」

木村 関泉



「軌」

小松 美恵



「寄李提舉」

宇田川春華

幼・1年

す
小一 上田ありさ

あさ
小一 いとうゆり

2年

ほとた
小二 いとうなみ

わうき
小二 上山ゆいこ

3年

ばた
たな
小三 村山元子

ら手
いあ
小三 山川直人

4年

雲
小四 石川美里

川の
天の
小四 星野光

5年

開会
小五 山下友子

自由
形
小五 山田花

6年

夏至
小六 田中実

ダソ
水
小六 花田幸

中学

知恵
中一 川上道子

選手
宣誓
中二 山口正

太陽の
季節
中三 山口ゆり

夏河を
こすうれしさよ
手にぞうり
中三 宇山春美

編集余録

○5月7日が春季昇段級試験の締め切り日です。昇段級試験は春と秋の年2回しかありません。段級昇格のチャンスです！皆さんの力作を期待しております。

○2月に東京都美術館で第75回記念全国学生書道展と併催された第77回書道芸術院展の上位入賞作品を掲載しました。書道芸術院は、漢字、かな、現代詩文書、篆刻刻字、前衛書の5部門を擁する総合団体です。多彩な表現の作品をぜひ鑑賞してください。

○初夏を迎え、新緑が鮮やかな季節になってきました。初夏とは旧暦の夏の始まりの1カ月のことで、旧暦では1月〜3月を春、4月〜6月を夏、7月〜9月を秋、10月〜12月を冬としており、現在では5月初旬から6月初旬のことを言います。

初夏が終わると梅雨に入ります。梅雨の代表的な花といえば、紫陽花です。紫陽花は英語名で「ハイドランジア (Hydrangea)」といい、たくさん水を吸収する植物ということから、ギリシャ語で「水の器」を意味する名前が付けられたそうです。この時期に咲く色とりどりの紫陽花を楽しまながら、雨の日が続く梅雨の季節を心穏やかに過ごしてください。

(悠輝)